ボクの仏教学習ノート②メモ

- 根本仏教#02
  - 人は幸せになるために、いろいろなことやものを得ようとして、しゃかりきになる
    - ところが手に入ったものが多ければ多いほど、苦が増えてくる
      - 例えば、幸せのために結婚をしようとして頑張って結婚相手を探す
        - 運良く結婚出来たとしてもそこから価値観の違いなどの苦が始まる
        - 子供が欲しくなり子供を持つと、今度は子供が悩みの種となる
        - 子供のいない夫婦は、子供がいることから起こる苦しみは生じない
  - 仏教では「自灯明」「法灯明」という教えがある
    - 自灯明とは「自分をより所としなさい」
      - 自分には頼りになる自分とならない自分がある
      - 自分（理性）をより所とせよ
      - ところがずっと理性が働いているわけではない。欲によって理性が飛んでいってしまう
    - 法灯明とは「真理（法）をよりどころとしなさい」
      - 理性を失わないために法（真理）に照らしなさい
  - お釈迦様が説かれた教えは「真理」（法）
    - 真理には条件がある
      - 論理性＝話に筋が通っている
      - 客観性＝主観（思い込み）の逆
        - 誰が見ても聞いてもそうだと納得
      - 具体性（生活に活かせるもの）
      - 普遍妥当性（いつでも、どこでも、誰にでもあてはまる）
        - 例外なく100%あてはまる
    - 真理（法）の区分け
      - すべての現象（存在）が具えている「性質」
        - 無常
        - 苦
        - 無我
      - すべての現象（存在）にあてはまる「法則」
        - 縁起
      - すべての現象（存在）に対する「問題解決法」
        - 四諦
          - 八正道
          - 六波羅蜜
  - 実は我々は変化が嫌いだし、苦は嫌いだが、真理に背きたくて苦が生じる
    - しかし、変化するという真理を受け入れることによって苦がなくなる